五夕日刊
磐城時報
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘盛
印刷人 福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所 磐城時報社
一部金武錢一ケ月五錢拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

外面的にのみ發達して
町民教育が薄い
圖書館の設置が必要だと
平町有志の意嚮

近來平町は異常なる發達をなし當に市として資格を具備せんとしつゝ平町の側面を觀察し居る某有志は語る「平町は近來異常に外面的に發達して來た事は認められるが、實際に於ける智育德育方面の町民教育が他町よりも薄いのではないかと感じられる、即ち此大平町にして一つの整つた圖書館のなきは實に遺憾である、平第一小學校に平圖書館はなる樣であるが地の理を得てないのと廢藝の僅少との點に於て殆ど有名無實である、これは宜しく町費の一部出費と町内有志の寄附を仰げば可なり整つた圖書館をつくる事は易々たる事であらうと思ふ、然も場所は平商業學校にても平陽實科女學校の舊校舍にても好箇の場所があらうと思ふ、尚此圖書館完成と共に保母學校の設備も叫び度いと思ふ、此の平町は女子勞働者も可成り多く殊に夫婦共稼ぎが多い樣であるから適切に必要であらうと思ふ。云々」

磐炭勞働爭議
遂に暴動化の前兆
流血の慘事が頻發
當局死力を盡して警戒

内郷村磐城炭礦の同盟罷業は双方共疲れ氣味ではあるが依然として繼續し綴本坑及び南斜坑は總罷業の狀態で一日三百噸の出炭減、高坂坑は就業員半減し、内郷、町田各坑でも會社の御用團体である磐炭會員二百名を出動させてたくため入坑者減じ從來二千二百噸を綴驛から送つてゐた磐城炭礦の輸送炭は爭議起つて以來一日千噸の減少を來して會社は重大な危機に立つたと言はれてゐる會社では之に關し四日午後山元幹部會を開いたあるが日本坑夫組合では四日午後から宣傳隊を組織し戸別訪問の計劃を樹て午後九時半頃第一回訪問として小田炭礦から應援に來た熊谷長右衛門(三六)を始め中丸勇(二三)外一名と共に訪問に出掛け高坂坑の磐炭會建國會事務所前を通り屋内にストーブが燃えてゐたのでその火にあたつてゐた處、突然二十名の多數が集つて包圍し坑夫組合訪問隊の三名に危險を加へんとしたので中丸勇外一名は之をふり切つて逃走したが熊谷長右衛門は遂に押へられツルハシその他で全身を毆打され頻死の重傷を負ふた騒ぎに警官多數急行し加害の被疑者として磐炭會奥信次外一名を檢擧し證據品を押收して目下綴驛前警備本部で取調中である、尚は被害者熊谷長右衛門は頻死の重傷で炭礦醫も生命を保證する事が出來ないとの事で午後十一時頃平町田町赤心堂病院に舁ぎ込み手當中である。

坑夫組合員
頻死の重傷
警備係
毆打さる

磐城炭礦の爭議は前記の通りで日本坑夫組合員の遭難は別項の如くであるが同日午後八時頃高坂坑に於て勞働者二十數名が一團となり宣傳ビラを撒布してゐたので、磐城炭礦警備係山崎某(三六)が之を取り拾はんとしたのに俄然二十數名は山崎を毆打し前齒を折つて同礦附屬病院で加療中である。

磐炭會員檢擧

四日午後三時頃磐城炭礦高坂坑後山夫長久保德松(三六)は磐炭會員二十余名を指揮し警官の制止するを聞かずに示威運動を行はんとしたので遂に檢擧され平署に拘留中であるが、旬日に亘る磐城炭礦の爭議は遂に暴動化の前兆と見る可き事件頻發するので警察では死力を盡し警戒中である。

町村長代表
御大喪
參列者
伏見氏等に決定

御大喪儀に本縣下町村長を代表して參列奉送する者について縣では過般之れが人選中であつた處三日左記二名と決定主務省に報告した。

▲石城郡平町長伏見彦衛
▲北會津郡神指村長皆川應助

▲營業を休む
石城郡銀行組合、平町料理屋組合では來る七日、八日兩日、平呉服商組合は七日御大喪儀について營業を休む筈である。

▲電力公休繰下げ
明六日は第一公休日で電力休みの日であつたが七日は御大喪儀であるため東部電力會社平營業所では公休を七日に繰下げたと。

年始に來て
便所で死亡

湯本町字御幸山下字石畑製板業川澄正(四三)は四日午前十時四十分頃平町長橋町の實兄川澄正容方に年始の禮に來り同家便所内で腦震蕩を起し死亡したので平署から佐々木部長檢死した。

小名濱埋立工事を
許可次第に竣成して
本年から事業を始める
東洋捕鯨會社

東洋捕鯨會社長樋山一平氏から二十六日本縣へ宛小名濱築港埋立地に隣接して五百四十五坪の埋立許可方に關し設計その他の關係書類を添附して出願して來たので縣土木課に於て目下調査中にあるがその埋立工費は九千三百七圓で縣有埋立地の北側に接續し約三十五間に十五間余の長方形に埋立するもので工事施行認可の時から向ふ三ケ月以内に工事完了する見込みと云ふにある、而して同會社は先に縣有埋立地の一部を捕鯨根據地の敷地として使用方主務省から許可されたが該埋立地關係については設計書の作製は思はざる日數を要した事として漸く今回の出願を見たものであるも同會社としては既に許可のうめ立使用地に事務所工場等の建物を建築しながらうめ立の許可あり次第極めて急速に工事を竣工せしめ愈本年の好漁期より專屬の無線電話裝置二百噸級捕鯨船を廻航し、大々的活動をなすものゝ如くであるから之が實現の期も極めて近きにあり其際に於ける同地方の發展上直接、間接に受くる稗益は蓋し尠くはないであらうと見られてゐる。

▲石城詩の會
平町石城詩の會第十回例會は六日正午から平公園春木屋に開く筈で會費二十錢である。

ぜんそくを苦に
老爺の縊死

石城郡三坂村大字下三坂三四農橋本龜三郎(七四)は去る一日午後七時頃家人の留守中に自宅隱居の梁に細紐をかけ縊死をとげたが、原因は家計不如意の上數年前から喘息に苦しんでゐたのでそれを悲觀したゝめらしい。

少年職業に就て
伏見町長の演說
於小學校長會席上
（五）

而して上級學校に進む者も學究を以て身を終る者若くは富豪の子弟を除く外は何等かの職業に就かねばならず又家業の幇助者も早晩何等かの職業に就かねばならぬのでありまして時期の遲速こそあれ何れも等しく職業に就く事は同一であります、其職業に就くと云ふことは一面自己の爲であり又社會の爲め働かんとする者であります、然るに萬一にも上級學校に進む者の爲めには熱心なる準備教育即ち豫備智識を與へられ又家業の幇助をなすものは温き父母の膝下にありて指導せらるゝに反し卒業後直に職に就かんが爲め不見不知の他人の飯を喰はねばならぬと云ふ比較的恵まれない兒童に對しては何等の準備も指導もせずに社會に放り出すと假定しましたならば如何でありませう、恐らく兒童の幼き頭には既に其當時より我等は恵まれざる人間であると云ふ妙な感を懷かしむる事となり思想上考慮を要すべき問題が此時より胚胎するのであると思ふのであります、學校の御當局に於ても既に十分此點に關しては御配慮になつて居らるゝ事と思はれます、此御配慮と相俟つて常紹介所は是等求職兒童を善導し保護し社會の一員として立派に仕上度いと努力する次第であります、願はくは各位此趣旨を御諒解下さいまして卒業後直に就職せんとする兒童に對しては上級學校に進まんとする者に對すると同樣職業に關する豫備智識を與ふる事に一層の御盡力を煩はすと共に「勞働は神聖なり」「職業に貴賤の別なし」と云ふ觀念を御與へ下さる樣一層の御配慮を願度のであります。

旅館 富士屋
松ヶ岡公園の
冬の情景!!!
靜かに深みゆく
冬の
公園池畔に
御來遊あれ
松ヶ岡公園池畔 電話二二六番

カシキモノ
貸衣裳
平古鍛冶町一
茗荷屋貸衣裳店

印刷物は 加納活版所

平町買ひ好い店　壹等當選爲御禮
舊正月三日・四日・五日三日間限り
景品附大特價提供
山家ヤメリス店
平町一丁目（電話六〇五番）

カキは一の井
料理はカキ
品と値の競爭なら…絕對負けぬ
靴値下げ斷行……市價の二割安
磐城の平田町
大塚支店　製靴部　運動具部
電話七〇二番

直
早蟹
印半天
金印半天專門
優秀品の證明
受領
草野染工場
磐城平町
電話三四八番

投票用紙

「模擬平市會議員」

「平模擬市會」市會議員得票

一八〇票　井上貞次郎氏
一四二票　綠川喜三郎氏
一二二票　三森虎雄氏
一〇四票　馬目雅治氏
一〇一票　白井一郎氏
九十八票　關內正一氏
九十五票　柴田德二氏
九十二票　吉田寅之輔氏
八十九票　高橋龜松氏
八十二票　吉村安次郎氏
七十四票　齋藤英三郎氏
六十二票　鈴木昌雄氏
四十五票　馬目武之助氏
四十三票　大森勇氏
四十二票　櫻井清氏
三十六票　萩原義雄氏
三十二票　阿部政右工門氏
三十二票　猪狩庄平氏
三十一票　草野順平氏
三十票　山野邊東次郎氏
二十八票　鷹崎正見氏
二十六票　山崎德次郎氏
二十五票　諸橋守次氏
二十五票　蓮沼龍輔氏
二十三票　酒井清氏
二十三票　杉本榮一氏
二十一票　鈴木邦三郎氏
二十一票　鈴木武雄氏
十九票　橫山顯氏
十八票　山崎清三氏
十七票　眞木桓氏
十六票　高倉精一氏
十三票　山田盤麿氏
十二票　千葉彥治氏
十二票　諸橋元三郎氏
八票　瀧澤俊平氏
七票　市原守馬氏
七票　關內喜久次郎氏
六票　諸橋正次氏
六票　中野康平氏
六票　渡邊源吉氏
六票　山野邊大五郎氏
五票　長瀨延太郎氏
五票　佐藤武之氏
五票　吉田喜代治氏
四票　須田甚太郎氏
三票　多田井笑次郎氏

謹んで休業
御大葬に敬悼の意を表し來る七日・八日の兩日謹んで休業仕り候
昭和二年二月四日
平町料理屋組合

生活改善!!!
紋服・丸帶・袴・羽織・喪服かつぎ等衣類一切扱升
カシヤモノ
御婚禮衣裳特に勉强・髮飾・ハコセコ・島臺類一切
冗費節約!!!
ギルフ高價買入
御一報次第ニ伺ヒ升
質・古着・仕立物
茗荷屋貸衣裳店
ギルフ　電三一六

良品廉賣に勝る商略なし!!!
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
磐城平　電話九三九番
確實敏捷は釜の生命なり!!!

大喪儀に付二月七日當組合は弔意を表し謹んで休業仕候
平吳服商組合

平町病醫院案內

腸胃病專門　內科
十二指腸虫病
極秘專門　淋病　婦人病　肛門病（かたね）
平南町　松村病院　電話一〇七

內科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
高久病院
院長高久忠
平町　電話一三五

小兒科、內科、皮膚花柳病科（血液檢査）外科婦人科、耳鼻咽喉科
特設動脈硬化症及中氣（血壓檢査）
診察料無料
診療主任醫　池田次郎
平町田町
實費病院
（本局裏通電五五一）

原遙科病院
平町土橋通り
電話三一番

外科一般、婦人科
耳鼻咽喉科
慈恵醫學士　新妻由五郎
日本醫學士　高橋貫
赤心堂病院
田町　電話四七五

外科專門
入院隨意
上田外科醫院
南町　電一二九

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話六八番

大和田醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

內科
院長部長醫學博士　菊地泰助
副部長醫學士　松野松治
外科
部長醫學士　野田一
顧問醫學博士　松永琢磨
衛生試驗所（理化學的檢査）
主任醫學博士　菊地泰助
技師　和田宇市
藥局
藥劑師　吉本孝平
病院主事　賀澤忠治
磐城共濟病院
平町電話六四一